



学校だより

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/yokohamafukayadai>

令和6年5月31日

6月号

横浜市立横浜深谷台小学校

校長 角井 治朗

人を育てる三つの「ゆ」

校長 角井 治朗

降り注ぐ日差しの強さに夏が近づいていることを感じる中、5月23日、24日には、5年生が三浦宿泊体験学習に行ってきました。温かい潮風に吹かれながらビーチコーミングをしたり、長井漁港で漁師さんのお話を伺ったりと、楽しく、学びの多い二日間を過ごしてきました。出発式の中で子どもたちに、「困ったり分からなかったりしたとき、すぐに誰かに聞くのではなく、まず、自分で考えたり確かめたりすることを意識してみよう。」と声を掛けました。その言葉を子どもたちがどの程度意識していたかは分かりませんが、一生懸命しおりを確かめたり、頻繁に友達同士声を掛け合ったりする姿から、自分たちで考え行動しようとする子どもたちの意欲を感じることができました。

さて、今年度初めの学校だよりで、今年度の学校経営の方針の柱として「学びの主体を子どもたちへ」というお話をしました。では、主体的な子どもたちを育てるために、具体的にどんなことを大切にしていってらよいのか、そんなことを考えているときに、ある大学の先生のコラムを目にしました。そこでは、子どもの主体性を含め、人が伸びやかに育つヒントとして「三つの『ゆ』」について述べられていました。三つの「ゆ」とは、「ゆだねる（委ねる）」「ゆるす（許す）」「ゆずる（譲る）」という、いずれも「ゆ」が語頭にくる行為をさします。主体性を育むには、まず、相手を信頼して「やっpegおらん。」と委ねることから始まります。当然のことながら、やってみた結果、失敗することもあります。その時、その失敗を責めるのではなく、失敗に意味を見だし、次につながるという長い目で見ることが「許す」です。最後の「譲る」は、「自分でやりたい、認められたい。」と思うばかりでなく、「どうぞ。」と譲る一言が和やかな関係性を生み出します。譲ることができるくらいゆったり構えることでゆとりが生まれ、そこに心の豊かさが生まれるということです。（教育新聞 2023.4.3 コラム「保育のこころもち」学習院大学教授 秋田 喜代美先生より引用）

冒頭にお話ししたように、例えば、体験学習のような行事の中でも、すぐに大人に頼るのではなく、まず自分で考え、判断し、行動してみること、そして、その結果の正否はともかく、そうした行動をとったこと自体を私たち大人も、そして子どもたち同士の中でも、価値づけられていくことが大切です。委ね、許し、譲り合う、そんな温かく、ゆったりとした環境の中でこそ、子どもたちの主体性が育まれるのではないのでしょうか。